老舗納豆メーカーの立て直しのために創業

弊社は「くめ納豆」ブランドを展開する納豆業界大手、くめ・クオリティ・プロダクツ株式会社（以下 前身企業）が、2009年に民事再生の適用を東京地裁に申請したことを契機に誕生した会社です。私が株主となり、その不良債権を引き継ぎ、精算するための会社として創業しました。

業界大手メーカーの手厚い援助で見えてきた再建への道筋

民事再生を申請したものの、スムーズに再建フェーズに入れたわけではなく、課題は山積していました。その中でも特に深刻な問題が粉飾決算と100億円を超える負債額です。特に粉飾決算の問題は経営再建にとって大きなネックになりました。

再建の道を歩み出した直後の東日本大震災による被災

金砂郷食品として新たな歴史を歩み始めた2009年の大きな仕事は、支援企業のOEMでくめ納豆を製造して供給することでした。当時100人の社員を抱えて、年商が20億円ほど5年計画での再建スキームは順調な滑り出しを見せていました。

ところが3年目の2011年、東日本大震災が起こり2つの工場が被災し、再建計画は頓挫してしまいます。さらに当時のメインバンクとの行き違いも重なり、再建計画の見通しは立たなくなってしまいました。最終的に支援企業に債権放棄をしていただき、何とか危機を乗り越えられましたが、今度はその債権放棄により経常利益が大幅に拡大したことから翌年の納税額が跳ね上がり、資金繰りが逼迫する事態にも見舞われました。

次の一歩を踏み出すために始めた新ブランド

弊社は当初、支援企業が商標権と営業権を持っていた「くめ納豆」の製造を請け負っていたため、自社ブランドはゼロでしたが商品開発は続けていました。その時の商品開発のコンセプトは「大手他社ができないものを作る」でした。

将来的には海外の売上と国内の売上が半々ぐらいになるような状態を目指しています。弊社だけで海外展開に関わるすべてのことを行うとは思っていません。シナジー効果のある企業とはM&Aや業務提携も含め、事業を一緒に進めていきたいと考えております。



金砂郷食品株式会社

代表取締役社長 永田 由紀夫様